

## 高橋秀男\* 伊豆諸島植物採集記 (二)

## H. TAKAHASHI : Notes on the Plants Collected in Izu Islands (2)

5. 御蔵島のニオイエビネ (オオキリシマエビネ) 前報でオオキリシマエビネの新島新産を報告したが、このことはすでに古くから知られていたようで、伊藤：エビネとその仲間 (1969)\*や前川：原色日本のラン (1971) などに記述があり、その和名も前記著書を参照するとニオイエビネの名を用いる方がよいと思う。本年 (1972) 5月上旬、伊豆御蔵島に渡ったとき、たまたまニオイエビネの最盛期に遭遇し、すばらしい花と香りを観賞することができた。がまた雨天の一日は同島在住の栗本岩松氏よりニオイエビネの名の由来を聞くことができた。昭和の初め、同氏が横浜植木K.K.のサクユリの委託採集を行っていた当時、御蔵島のエビネは花が大きく、においがあることを同社に話したところ、早速その方の採集も依頼され送ったものが、後にニオイエビネの名でカタログに載ったという。

御蔵島におけるニオイエビネの垂直分布は、標高 200 ~ 700 m の間で、スギ、ツバキ、ツゲ、クロマツなどの植林地やシイ、タブ、ヤマグルマなどの自然林に生え、やや明るい林床または林縁に小群落をなしている。人里付近や路傍は取りつくされたらしく、その数は少なく、また暗い森林内には生育していない。地下の偽鱗茎は連珠状に続き、かなり古い葉も残っている。開花期は4月から5月、花もちがよく、20日から30日の長い間開花し、花が終り頃になると変色し、芳香はなくなる。稀に冬咲きもあり、栗本岩松氏の栽培品の中には冬期に開花する個体もあるとのことである。

ニオイエビネの花色の変異を御山 (標高850m) から御代ヶ池に下る途中 (標高 600 ~ 700 m) の自生地で見学した。ここは山深く人為的な影響が殆んどないところである。普通品は唇片が白色で花被片が淡紫色と淡桃色の個体であった。唇片は白色のほかクリーム色、黄色、淡紫色、淡桃色品があり、花被片は紫色、濃紫色、紅紫色の個体もしばしば普通品に混生し、さらに唇片と花被片の色には沢山の組合せができ、複雑な色彩を呈していた。中には花被片が紫色で、唇片が白色と黄色の2色の花を同一株に咲き分けている個体も見出された。

このようにニオイエビネの花色の変異が多いにもかかわらず、里一発電所、里一黒崎の高尾間の道沿いに見られたものはみな普通品で個体数も少なかった。これは部落の人達が

\* 神奈川県立博物館 Kanagawa Prefectural Museum

色変りを好み、変り物は採集してしまうためと考えられる。じじつ里部落で鉢植えになっているものは色の変ったものも多く、栗本好一氏宅には花被片の濃赤褐色で、唇片は白色のものがあり、また栗本岩松氏宅には唇片、花被片とも純白色の個体が栽植されていた。純白花は白花品種（シロバナニオイエビネ）として認めてもよいものであり、ごく稀に野生している。大部分は白花品のように見えても花被片に薄い紫色や桃色のかげりが見られる。なお栽培品のなかにはエビネとニオイエビネの自然雑種のコウズエビネ *Calanthe izu-insularis* × *discolor* と思われるものも見られた。この雑種はエビネ状に根元の葉は3枚が広がり、花の色彩や形態もエビネ的であるが、葉の幅は広く、厚く光沢があり、花は大きく、芳香があるところはニオイエビネ的である。

**Color of *Calanthe izu-insularis*** Diversity with color of *Calanthe izu-insularis* flower was observed in the native land on the way from Oyama (alt.: 850m) to Miyogaike in the Izu Mikurajima island. The color of flower has a great variety as does that of *Calanthe discolor*. Flowers with white lip and pale violet or pink perianth lobes are most common there, but other flowers with cream, yellow, pale violet or pale pink lip and violet, dark violet or reddish purple lobes were often observed. In these flowers, two kinds of flower with white or yellow lip and similar violet lobes blossomed on a stock were found. The plants cultivated in the Sato village have flowers with reddish dark brown lobes and white lip or white lobes and white lip. The plant of pure white flowers should be recognized as a form of white flower, and such plants scarcely grow naturally. Although most of them appear to be the forms of white flowers, the perianth lobes have a trace of pale violet or pink color on petals. The other plants, which are estimated to belong to a spontaneous hybrid, *Calanthe izu-insularis* × *discolor*, have been cultivated in the village.

6. ユウシュンラン 御蔵島里から御山へ至る登山路沿い（標高250~300m）のシイ林内で採集した。伊豆諸島では大谷茂氏が最近八丈島（植物採集ニュース61号）で記録した。

***Cephalanthera subaphylla* MIYABE et KUDO**

**Hab.** Isl. Mikurajima (H. TAKAHASHI, Jun. 14, 1967. KPM\* no. 36559)

7. ヒメヒオウギズイセン 御蔵島の各所に野生化し、旺盛を極めている。

***Tritonia crocosmaeflora* LEMAIRE**

**Hab.** Isl. Mikurajima (H. TAKAHASHI, May 7, 1972. KPM no. 36593)

8. ハチジョウギボウシ 1967年秋、新島の海岸岩壁で採集した *Hosta* は葉が広卵形又は円形に近く、幅10~15cm、長さ13~20cm、革質で光沢があり、花は大形で密につけ15~20花、明らかにハチジョウギボウシと同定できるものである。新島で本田ら（1959）、右手

\*KPM = Herbarium of the Kanagawa Prefectural Museum, Yokohama.

・内藤 (1965) があげている *Hosta longipes* は採集していない。御蔵島産 *Hosta* も根生葉のみで花は見えないが恐らくハチジョウギボウシであろう。

***Hosta rupifraga* NAKAI**

**Hab.** Isl. Nijima (H. TAKAHASHI, Sep. 27~28, 1967. KPM no. 45511, 45513)

9. **アカフトゲナシサルトリイバラ** (新称) サルトリイバラやその変種とされ海岸に生えるトゲナシサルトリイバラはときに葉の縁にごく狭い赤紫色の隈取りがあったり、葉の表面中央やその周辺に不規則な赤紫色の斑点がしばしば現われることがある。その斑点も小さいのであまり目立たず、また古くなると殆んど消失してしまう。御蔵島里で採集したものはトゲナシサルトリイバラの型で、葉の表面全体に赤紫色の斑点が顕著にはいったものである。あたかも赤紫色の絵具を筆でふりかけたような模様が全面に広がり、特に若葉の頃が著しい。古くなるとこの斑点は落ちついて目立たなくなってくるが、越年しても消えることはなく、また腊葉にしてもよく残っている。この一型をアカフトゲナシサルトリイバラと呼び記載する。村の人は既にこれに気付いていて、毎年この小枝を折り取って来て花瓶に生けていたようであり、充分観葉植物となり得るものである。

***Smilax china* L. var. *yanagitai* HONDA in Bot. Mag. Tokyo 49 : 697 (1935)**  
**f. *variegata* H. TAKAHASHI f. nov.**

**Folia rubro-violaceo-variegata.**

**Nom. Jap.** Akafu-togenashi-sarutoriibara. (nov.)

**Hab.** Honshu, Prov. Izu : Mikurajima, Sato-buraku (H. TAKAHASHI, May 5, 1972. - Holotypus in KPM no. 36560) (続く)